平成13年1月1日　第1299号　発行：湯沢町役場総務課

広報 ゆざわ

湯沢町町民憲章

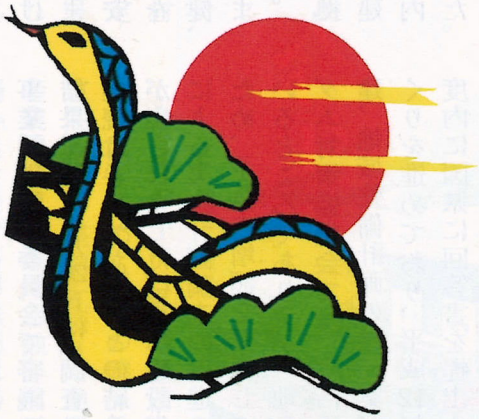
わたしたちのねがい

美しい自然につつまれた雪のまち湯沢
清らかな愛情あふれるまち
すこやかな活力みなぎるまち
さわやかな誰もが訪れたいまち
みんなで力をあわせ
豊かで明るく住みよい
文化の香り高いまちをつくりましょう

あけまして おめでとうございます

新春を迎え
皆様のご多幸を
お祈り申し上げます

平成十三年元旦



元旦の楽しみでもある年賀状。元旦に各家庭に年賀状が配達されるのは、年賀郵便特別取扱制度によるものです。

欧米では、クリスマス・カードにハッピー・ニュー・イヤーの言葉を添えるのが一般的です。しかし、日本ではクリスマス・カードを出して、さらに年賀状を出すという人もいます。日本人にとって、年賀状が大切なあいさつと考えられているからでしょう。

年賀郵便の取り扱いが始まったのは、明治32年です。昭和10年には、年賀切手も発行されました。戦中戦後は年賀郵便の取り扱いが中止されましたが、昭和23年に復活し、翌年にはお年玉付き年賀はがきも出て、年賀状の扱いも急激に増えました。

最近は、手書き・ワープロに代わって、家族などの写真をデジタルカメラで撮り、パソコンで年賀状をつくる人が増えています。皆さんの手元にもそんな年賀状が届いているのではないでしょうか。

新年のごあいさつ

湯沢町長　村山　隆征



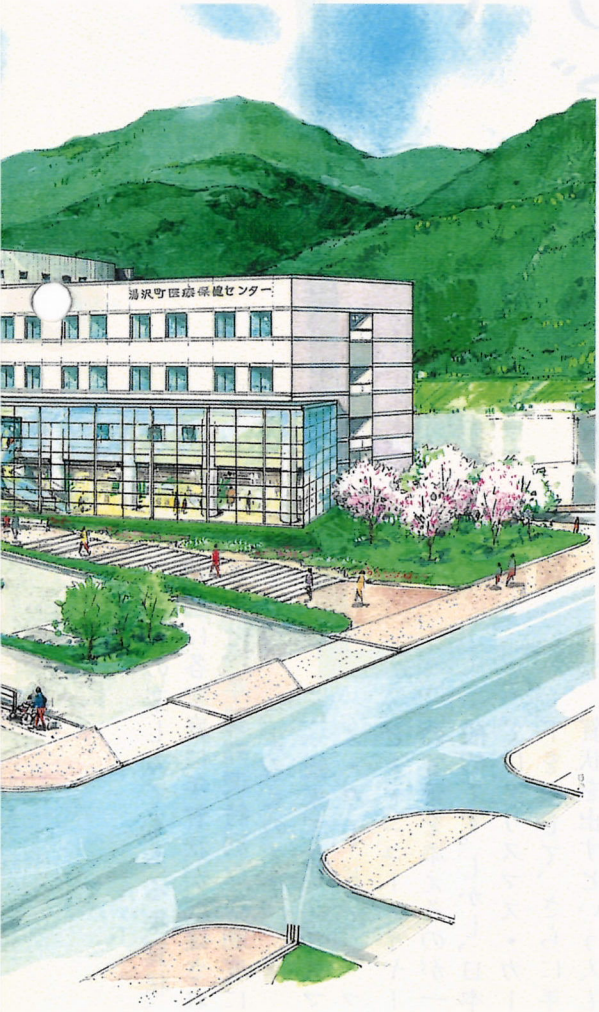
明けましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

西暦２００１年、新世紀を迎え、明るい未来を念願しているところであります。経済は景気の低迷が続き、観光を基幹産業とする湯沢町にとって厳しい状況にある中で、町民の皆様からは町政全般にわたるご支援、ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

ご存じのように国は行政改革推進による省庁の再編で、1月6日から1府12省庁の新しい体制に生まれ変わります。地方自治体においても、昨年4月の地方分権一括法の施行により、自主的・主体的な行政運営を進めていくことが求められております。まさに地方自治体同士がその行政サービスの質を競い合う時代になったといえるでしょう。湯沢町でもこうした地方分権の流れに対応すべく、昨年4月に役場の機構改革及び情報公開条例の制定を行い、行政の効率化と開かれた行政の推進に努めているところであります。

高齢化が叫ばれ、介護の問題がクローズアップされる中、昨年4月に「公的介護保険制度」が施行されました。湯沢町では、利用者の希望を尊重した総合的なサービスが受けられるよう取り組んでおります。今後もすべての町民が安心して生きがいのある生活を送ることができるように保健、医療、福祉の充実に努めてまいりたいと考えております。

町民の生命と財産を守る拠点となる医療保健センター建設計画については、昨年町内7ヵ所で説明会を行いました。現在、建築実施設計に取り組んでおり、また病院開設等について県と協議を進めております。また、町が施設を整備し、管理運営を社団法人地域医療振興協会に委託する手続き等についても双方で協議をしているところであります。町と協会が相互の信頼関係のもとに着実に運営してまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



国の公共事業見直しで対象にあげられた清津川ダム事業については、北陸地方建設局事業評価監視委員会で審議の結果、昨年11月26日に「調査の継続は妥当である」との結論が出されました。現在、建設省による実施計画調査の促進のため、予算の増額を要望しているところであります。地元ダム対策協議会では、生活再建、地域整備計画の地元案づくりを進めており、平成12年度内に国県に回答書を提出する予定とのことです。昨年11月18日には平山知事が地元入りし、現地視察及び地元住民との懇話会が行われました。町では地元の皆さんのご理解と県の支援を得ながら、早期解決に向けて事業の推進を図ってまいります。

少子・高齢化、情報化など社会環境は大きく変化しております。21世紀にふさわしい活力あるまちづくりのため、湯沢町総合計画の策定を進めているところであり、今後も住民生活の向上のため、一層の努力をしてまいる所存であります。皆様のご健勝を御祈り申し上げますとともに、引き続きご支援をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のごあいさつ

湯沢町議会議長　山本　邦悦

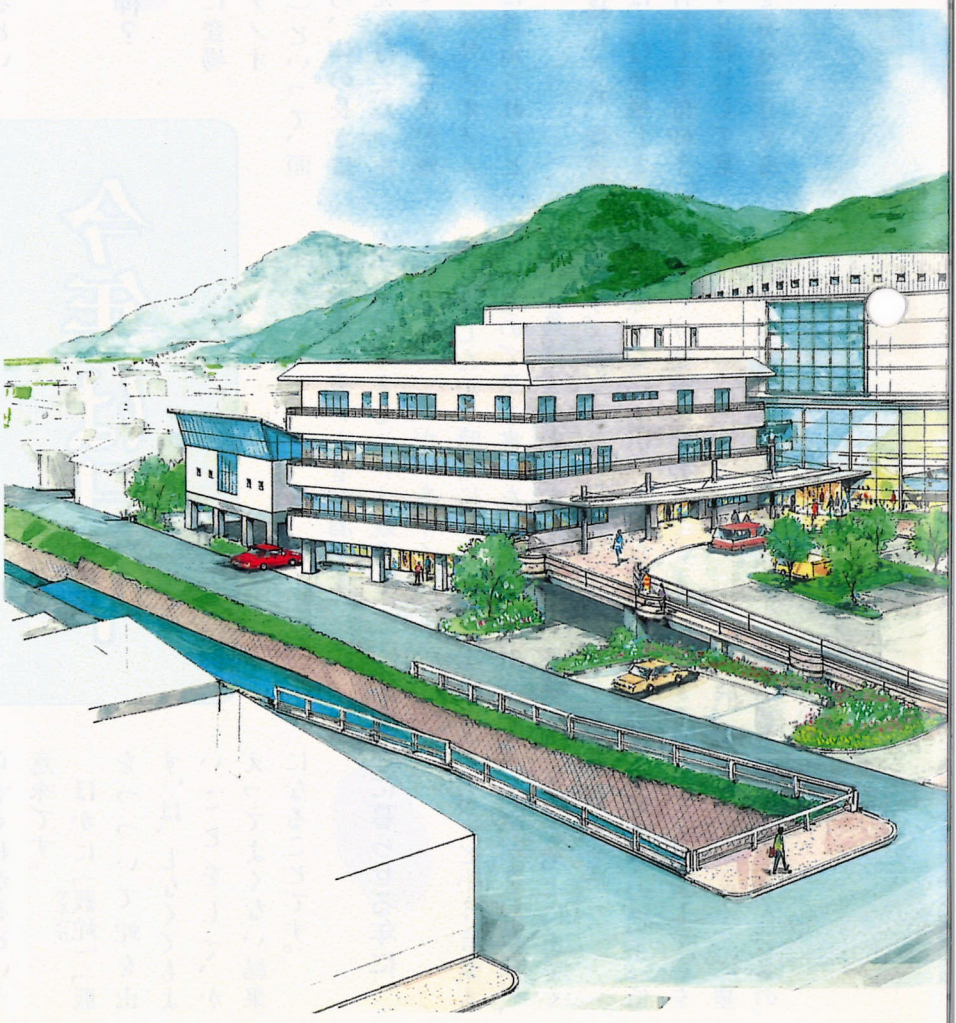


新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

21世紀の幕開けを迎え、町民の皆様も新たな意気込みをお持ちのことと存じます。昨年はシドニーオリンピック及びパラリンピックでの日本人選手の活躍、12月の福岡国際マラソンでの日本最高記録とスポーツ界の明るいニュースが数多くありました。しかし、その一方で北海道有珠山の噴火、また三宅島の地震と噴煙による被害など自然災害に見舞われ、今も避難生活を続けている人々がいるなどお気の毒な事件もありました。

私たちが長い人生を生きぬくためには、第一に老後の安定と安心して暮らせる世の中をつくること、第2に子どもを安心して産み育てられる環境づくりと教育制度の充実、第3にみんなが仲良く助け合っていける地域づくりが重要と考えております。

いよいよ今年から医療保健センターの工事が始まります。町民の皆様から、また議会で多くの要望や意見が出されました。転ばぬ先の杖として、そうした声を生かし、建物も中身も信頼とサービスに満ちた、皆さんが喜んで利用できる施設をつくりましょう。



今年2月頃には県から町村合併の枠組みが示される予定であります。南魚沼郡4町は、とりあえず広域連合で協力し合う方向で進んでおります。私たちは、町村合併は将来の地域のあり方や住民生活に大きな影響を及ぼす事柄であり、国や県が強制的に進めるべきではなく、あくまでも関係町村と住民の自主的な発意を基本とすべきであるという考えであります。

今、町の中には地域経済を立て直すため、雇用の確保と定住条件の整備を図り、地場産業の振興を求める強い声が聞かれます。町も民間もいろいろな取り組みで頑張っていますが、町民全体に求められているのはバブルの時代のことを一刻も早く忘れることであります。常に感謝の気持ちを忘れず、何事もお客様本意に考えようとする、一人一人の意識改革が必要と考えております。ニーズを把握し、満足してもらえるサービスとは何かを真剣に考え、実行していくことが湯沢の繁栄につながると思っております。私たち町議会議員一同、活力ある湯沢をつくるために町民の皆様とともに頑張ってまいります。

末筆ながら皆様のご多幸とご健勝を心よりご祈念申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。

○町民新春年賀交歓会○



お気軽にお出かけください。

【日時】
1月18日（木）18：00～
（17：30より受付）

【会場】
湯沢カルチャーセンターアリーナ
（立食パーティ形式）

【会費】
お一人様3，000円
（当日ご持参ください。）

【申込】
（財）湯沢町都市施設公社
TEL 84－1511

【主催】
湯沢町商工会・湯沢町観光協会・
（財）湯沢町都市施設公社

今年は巳年

約2，700種も生息

体が細長く、四肢のない蛇は、爬虫類（はちゅう）ヘビ亜目の動物です。細い舌の先端は二またに分かれていてよく動きます。そんな異様な外見から、蛇を嫌う人は多いようです。

蛇は温帯、熱帯、亜熱帯に多く生息し、アラスカ、シベリアなど寒い地方にもいます。全世界に約2，700種もいるといわれています。

蛇は悪者？神？

日本の神話に登場する蛇はヤマタノオロチ（八岐大蛇）といって、頭が八つ尾が八つ、体の長さは八つの谷を越えるほどだったといいます。そのオロチが娘を食いに来て、スサノオノミコトという神に退治されたという話です。

一方、蛇は神格化され、聖書や神話にもしばしば登場します。また、水の神として信仰されたり、家の守り神として家に住みつくのを喜んだりする例もあります。

蛇の絵に足を書きたす

蛇は古くから人間と関わりが多い動物だけに、故事やことわざもいろいろあります。「蛇足（だそく）」これはよく知られている言葉で、日常会話にも使われていますが、こんな由来があります。

昔、楚（そ）の国の役人が、蛇の絵を一番早く書いた者が酒を飲むことができるという競争をしました。一人がいち早く完成しましたが、時間に余裕があったので足を書きたしてしまい、負けてしまったという話です。このことから、あっても意味のないもの、余計なことという意味に使われています。

「蛇（じゃ）の道はへび」もよく聞くことわざです。「じゃ」といっても「へび」といっても呼び方が違うだけで同じもの。同じ仲間のやったことならすぐわかるという意味です。

ほかに「藪蛇（やぶへび）」「藪をつついて蛇を出す」は、しなくてもよいことをして、かえってよくない結果になることです。



心豊かに暮らせる年に

「蛇穴（へびあな）を出（い）づ」という言葉もあります。冬眠していた蛇が、春暖かくなって地上に出てくることをいいます。

21世紀の始まりの巳年。低迷する景気から脱出して春を迎え、みんなが安心して心豊かに暮らせる年にしたいものですね。